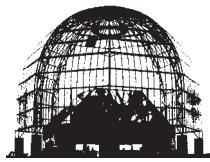


SEA LIFE NEWS

TOKYO SEA LIFE PARK



葛西臨海水族園

ゴンズイ

【英名】 striped eel catfish

【学名】 *Plotosus japonicus*

「東京湾 アマモ場」^{すいそう}水槽で、ゆらゆらと体を左右に動かしながらアマモの葉の間を泳いでいる、茶と黄色のしま模様^{もよう}の魚はゴンズイです。海でくらすナマズのなかまで、大きくなると全長20cm近くになります。幼魚^{ようぎょ}のころに数百匹^{みっしゅう}もの群れをつくることが知られており、ぎゅっと密集^{みっしゅう}したときのボールの様な形から、ゴンズイ玉^{すいとう}とよばれています。水槽のゴンズイも幼魚だった数か月前は数十匹がまとまり、かわいいゴンズイ玉^{すいとう}をつくっていましたが、近頃^{ちかごろ}は成長とともににお互い距離^{たが}をあけて泳ぐようになってきました。エサの時間には、特徴^{とくちょう}的な口元の4対のひげで、おいしいにおいのありかを探しながらみんなで泳ぐ様子を見ることができます。(教育普及係 高濱 由美子)

CONTENTS

SEA LIFE TOPICS

- クマノミが産卵! ペアの行動に注目
- オオホモラが背負うもの

なぎさ NEWS

- 身近にもいるトビハゼの現地調査
- なぎさで探そう! こんな生き物「タマキビガイ」

水族園のもう一つの顔

- 東京湾シンポジウムに参加しました
- 配信中! 「マグロくんのちょっと気になる」

TSLP LATEST



クマノミが産卵! ペアの行動に注目

「伊豆七島の海 3」水槽ではペアのクマノミを展示しています。4月のことです。以前から展示していた個体と追加した個体がペアとなり、オスが岩に着いた藻などを口でとりのぞく様子が見られるようになりました。これは産卵前に見られる行動で、卵を産み付けやすいように岩を掃除しているのです。ワクワクしながら産卵を待っていましたがなかなか産みません。約2か月後。オスがメスとともにいつも以上に熱心に岩を掃除する様子が見られました。その翌日、



岩に鮮やかなオレンジ色の卵を産み付けているメス

どうとうメスが産卵しました。メスの産卵中はオスもそばにいて、メスが10～20個ほどの卵を産み付けてその場をはなれると、すかさず放精をします。産卵と放精は1時間ほど続き、円形の卵塊が出来上がりました。メスが卵を産みおわると、オスは口や胸ビレを使って新鮮な海水を卵に送り世話をはじめました。また、卵に近づいてきた魚を追い払うなど警戒も怠らず、その後もずっと忙しそうでした。一方メスは、たまに卵の様子を見にきたかと思うとすぐにその場をはなれ、周囲をフラフラと漂ってばかりでした。日が経つにつれて、卵の色は鮮やかなオレンジ色から黒色、そして銀色へと変化していきました。約10日後、卵は無事にふ化し、繁殖期間が終わると思いきや、翌日にはオスが岩を掃除して、メスが卵を産んでいました。何もしていないように見えたメスも、次の卵を産む準備をしていたのかもしれません。確認しているかぎりでは、産卵の周期は一定のようで、2週間おきに行われています。10月末の段階では、7回も同じ場所での産卵を観察できました。この安定したリズムはいつまで続くのか? ペアが見せるさまざまな行動をぜひ見に来てください!

(飼育展示係 坂本 淩太郎)



オオホモラが背負うもの

オオホモラは深海でくらすカニのなかもです。一見すると他のカニと変わらないように見えますが、よく見てみましょう。なんと前から5番目のあし(第4歩脚)が背中側に反り返っています。この5番目のあし先はものをもちやすい手かぎ状になっています。オオホモラは、このあしをつかってカイメンや貝殻、刺胞動物のヤギなどを背負うことで、身を守るのだと考えられています。

「深海の生物 4」水槽で展示を開始してすぐは、水槽に貝殻が入っていても、それを背負うそぶりはありませんでした。一体何を背負うのか楽しみにしていた、ある朝のことです。見回りをしていると、なんと同じ水槽にいるウデナガゴカクヒトデを背負っていたのです。また、ある日にはオキナマコを背負っていることもあります。ヒトデもナマコも展示生物です。このままだと、健康に飼育できないので、かわりに形や大きさの違う貝殻を追加してみました。ところが、これらの貝殻には見向きもしませんでした。貝殻よりヒトデやナマコの方がお気に入りだったようです。また、観察していると、ヒトデをより大きな個体にもちかえるといった行動もみられました。形、大きさ、重さ、やわらかさなど、何を要因に選んでいるのか気になるところです。今後は野生下で背負うことが分かっている枝状のヤギの模型を試験的に与えて観察してみようと思います。オオホモラが背負うものにご注目ください。(飼育展示係 西村 大樹)



ウデナガゴカクヒトデを背負うオオホモラ



5番目のあし先は手かぎ状

なぎ NEWS さ



身近にもいるトビハゼの現地調査

東京湾奥部は、日本におけるトビハゼの分布北限域です。水族園の目の前にある「東なぎさ」は1988年に造成された人工の干潟で、1999年に周辺の干潟由来と思われるトビハゼがいることが確認されました。2003年から、周辺の生き物の生息状況を調査する目的で「東なぎさ」でのトビハゼ調査を開始しました。夏には繁殖期に作られる巣穴を数え生息数の目安とし、秋にはその年生まれの稚魚の数をカウントし繁殖状況を確認しています。2011年からは荒川河口域も調査地に加えました。20年以上調査を続けていると、年月の経過とともに生息地の環境やトビハゼの分布に変化が見られるようになりました。数か所の干潟では、ヨシ原の拡大により、狭い干潟がヨシで覆われてしまいトビハゼがすめなくなってしまったのです。一方、船着き場などの新しい構造物が作られることで、水の流れが変わり、以前は砂地であった場所に泥がたまるようになり、トビハゼの新しい生息地になったところもありました。今後も調査を続け、トビハゼがくらす干潟がどのように変わっていくのか注意深く見守っていきます。



トビハゼと繁殖用の巣穴



泥の中を進みながら調査を行う

(飼育展示係 笹沼 伸一)

なぎ
さ で探そう!
こんな生き物

見つけやすさ ★ ★ ☆ ☆ ☆

サイズ 裂長1~1.5cm

見つけるコツ

岩がたくさんあるところで、岩のすきまをよく探してみよう。岩にくつついでじっとしているところを見つけるかも。波が当たらないような、上の方向を探してみるのがコツ。岩場はすべりやすいところがあるし、岩についているカキの殻のフチで手を切ってしまわないように気をつけてね。

タマキビガイ (タマキビガイ科)

■タマキビガイはこんな生き物

丸っこい形をした巻貝のなかま。夏は、海水がとどかないような岩場などで、フタをとじたままじっとしている。たくさん集まっていることもあるよ。冬になると動きが活発になって、水の中まで入ったりするんだ。「西なぎさ」にはそんなに多くはないけれど、見つけたら海水の中に入れてみよう。黒っぽい色の2本の触角を出しながら、ゆっくり動くところを見ることができるよ。



タマキビガイ (実物大)



岩場の上の方を探してみよう



なぎさ NEWS って...?

水族園の目の前に広がる海、「西なぎさ」。このページでは、「西なぎさ」で定期的におこなっている生き物調査の報告とともに、なぎさに足を運びたくなるような生き物情報を届けします！生き物を見つけて足を運んでみよう！

水族園 のもう一つの顔

配信中!

東京湾シンポジウムに参加しました

今年の10月に開催された第25回東京湾シンポジウムに参加しました。東京湾というフィールドで活動している試験研究機関、民間企業、市民団体などから約220名が参加し、「沿岸域における海生生物の繁殖に関する研究」をテーマに口頭6題、ポスター20題の発表がありました。発表内容はさまざまで、カレイやキスといった水産上の重要種や泥干潟の生物調査、マハゼに関する研究などがありました。今まで知らなかった新たな情報や知見を得ることができ、大変勉強になりました。当園からは、「葛西臨海水族園におけるトビハゼの飼育と繁殖」という題目で三森職員が発表しました。展示水槽で見られるトビハゼの面白い繁殖行動や卵保護中の親の行動などを紹介するとともに、水族園が位置する東京湾奥部の荒川河口域や葛西海浜公園「東なぎさ」でのトビハゼの生息調査で得られたデータを元に、産卵の促進方法や稚仔魚の育成に成功するまでの苦労話など交えてお話ししました。この会議を通じて、東京湾の自然環境の再生や生き物の繁殖に取り組む多くの団体と交流し情報交換することができました。（飼育展示係 中村 浩司）



シンポジウム会場で講演する当園職員の様子

TSPL LATEST

TOKYO SEA LIFE PARK

- 10/10-22 小笠原諸島で生物採集を実施
- 10/11-13 開園記念日イベント「All about MAGURO」を開催
- 10/16 オウサマペンギン・ミニマウイットペニギンの屋外展示を再開
- 10/16 「伊豆七島の海1」でオオガラスハゼを展示
- 10/17 「第25回東京湾シンポジウム」に参加
- 10/28 長崎ペンギン水族館よりオウサマペンギン1羽搬入
- 10/30 「東京湾にいるこんな生物」水槽で水族園生まれのシリカケイカを展示
- 11/1 「第11回都立動物園アフリカフェア」スタッフトークを実施
- 11/2-3 「夢いっぱいのおさかなアート」ワークショップを開催
- 11/3-9 「みんなで決めよう！新しい水族園の生き物たち」を開催
- 11/16 「ボランティアーズDay 2025」を開催
- 11/16-27 種子島で生物採集を実施

「マグロくんのちょっと気になる」

10月10日は開園記念日。そして、「まぐろの日」でもあります。これに合わせ、YouTubeで新しい動画「マグロくんのちょっと気になる」を公開しました。水族園に遊びに来たマグロくんが、ちょっと気になったことについて専門家にインタビューして調べる内容です。今回取り上げたのは、クロマグロの資源量と水産エコラベルについて。動画作成には、国立研究開発法人水産研究・教育機構の山崎いづみさん、大関芳沖さんにご協力いただきました。「クロマグロが絶滅危惧種になったって聞いたことがあるけど、どうなったんだろう?」「最近見かけるこのマークってなに?」といった、ふとした疑問を2本立てで掘り下げます。資源の減少や気候危機などの環境問題は、すぐには解決できません。しかし、ブームが過ぎて忘れられる、あるいは振り戻しのように否定的な意見がクローズアップされることがたびたびあります。この動画には、科学的で信頼できる情報を伝えるとともに、当園スタッフも含めてみんなと一緒に考え、行動するきっかけを増やしたいという想いもこめられています。ぜひ、チェックしてみてください！

(教育普及係 宮崎 寧子)



マグロくんがいろんな専門家にインタビューするよ！

編集後記

文章を読んでいると、まるでその人が語りかけているように感じことがあります。会ったことがなくてもそう感じることがあるので不思議です。言葉の選び方、語順、一つの文の長さ、文章のさまざまな構成要素が「その人らしさ」を生み出しているのかもしれません。AIで文章が書ける時代ですが、「その人だから書ける文章」を大事にしていきたいと思います。（田中）

SEA LIFE NEWS 通巻125

Vol.23 No.6 2025 DECEMBER 12月1日発行（次号は2026年2月発行予定）

編 集 葛西臨海水族園
〒134-8587 東京都江戸川区臨海町6-2-3
TEL.03-3869-5152
www.tokyo-zoo.net/zoo/kasai/
発 行 公益財団法人東京動物園協会
〒110-0008 東京都台東区池之端2-9-7
池之端日殖ビル7階
TEL.03-3828-2143

